

# 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の探究

～言語活動を通して自己肯定感を高める指導～

## 深い学びの実現

思考の過程や論理を俯瞰  
→自己の学習の評価力や  
教科内容の認知力を高める

主体的に  
取り組む態度の育成

自己肯定感の高まり

自分の言葉による  
学習のまとめ

振り返り学習

できなかったことではなく、  
できたことの集積

授業内容のまとめ

自己肯定感を高める  
授業デザイン

家庭学習

対話的で協働的な学習

めあての提示

### あいさつ

葛飾区教育委員会 教育長 小花 高子

一之台中学校は、平成30・31年度葛飾区教育委員会教育研究指定校として「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の探究 ～言語活動を通して自己肯定感を高める指導～」を研究主題に掲げ、意欲的に研究を進めてこられました。

この度その成果をまとめられ、発表の運びとなりましたことに心から敬意を表するものであります。

本校では、「振り返り」を研究の柱として、「授業の振り返り」と「生活・学習ノートでの振り返り」を自分の言葉で振り返ることで、自分ができることを集積し、自己肯定感を高める取組をされてきました。

本校の研究成果が各学校に生かされ、葛飾区の学校教育の充実・発展へとつながりますことを心から願っております。

結びになりますが、本校の研究に際しまして、ご指導・ご助言を賜りました、玉川大学教師教育リサーチセンター 客員教授 吉田 和夫先生をはじめ、ご指導いただきました多くの先生方に深く感謝申し上げます。また、2年間研究に取り組みました、入山 賢一校長先生をはじめ、熱心に研究に取り組みました教職員の皆様に敬意を表するとともに、本研究を支えてくださいました保護者、地域、関係者の皆様に厚く感謝申し上げます、あいさつといたします。

### はじめに

葛飾区立一之台中学校校長 入山 賢一

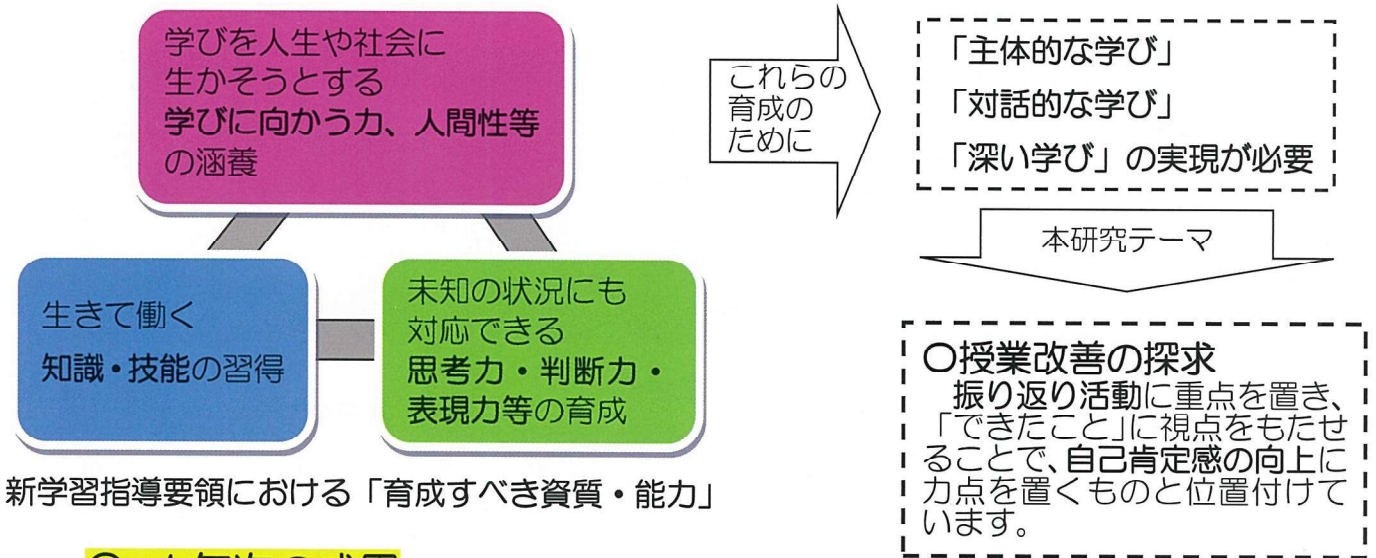
新学習指導要領の中核には「主体的・対話的で深い学び」があります。

このことについての理解を深めることが学校に求められることから、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善を探り求めることを研究主題としました。

まず、主題に沿って具体的に個々の授業を改善する突破口として、学習者の言論活動を重視し、一人一人の自己肯定感を高めることで主題に迫ろうと考えました。学習を自らの言葉で振り返らせることにより、自己の学習への評価力や教科内容への認知力を高めるとともに、各授業で思考・判断の時間を確保し、内容をまとめて表現する思考の過程や論理を俯瞰することができると考えます。そして、「できたこと」の集積が学習者の自己肯定感の高まりに結び付き、さらに主体的に学習に取り組む態度の育成につながることから、各教科等の深い学びを導くことができると捉えました。

また、改訂された葛飾教師の授業スタンダードでも、「学んだことを振り返らせ、学習内容を整理し、学習状況を肯定的に認める。」とあることから、本校で昨年まで研究してきた内容との一致があり、日常の研究が区の授業スタンダードに資するものとして、その具体の姿を示すことができると考えます。

## ◎ 研究主題の設定



新学習指導要領における「育成すべき資質・能力」

## ◎ 1年次の成果

- (1) 年間講師（玉川大学客員教授の吉田和夫先生）より、一貫して指導をいただいた結果
  - ① 研究の方向性を定め、アクティブ・ラーニングへの理解が深まった。
  - ② 日本では減点主義が根強く残っており、加点主義に転換させることで自己肯定感を高め実行力を身に付けられるようにするというヒントを得ることができた。
- (2) 研究授業、相互授業観察週間を設け、主体的・対話的で深い学びに着目した授業に取り組むことで、課題を把握することができた。

## ◎ 1年次の課題と2年目に向けての準備

- (1) 授業改善の共通項目

「できたことや分かったことを授業の中で確認すること」が自己肯定感を高め、次の学習に向かう意欲を育むという観点から

授業は原則1単位時間で終了させ、授業の最後に必ず振り返りを行う。  
振り返りは、言語によるもので、自分の言葉でまとめさせるようにする。

ことを徹底する。

- (2) 生活・学習ノート作成と取組

一之台中学校オリジナルの生活・学習ノートを作成し、毎日の振り返り、1週間の振り返りを記入し、自己分析することで自己肯定感や行動力を伸ばしていく。

本日の家庭学習内容  
(理科(1年))

・物理：物体が静止している状態

・物理：物体が動く状態

〈2つの物体の衝突〉

① 両物体の衝突前後の速度

② 衝突前後の速度

③ 衝突前後の速度

④ 衝突前後の速度

⑤ 衝突前後の速度

・物理：質量と重力の関係

・物理：物体の運動

月	教科	できたこと・学んだこと
1	国	読書の向き、題名の意味
2	体	ラジオ体操のやり方、体操の練習
3	理	プラスチックの性質、使い分け
4	英	英語のリスニング、リスニング
5	数	除法の計算、逆数
6	技	けしきを終わらせる、はさみで切る

分からない語句の意味調べ

## ◎ 研究の内容

### 主体的な学び



タブレットPCを活用した協働学習

### 対話的な学び



大型モニターを活用し、みんなの前で発表

### 深い学び



話し合った内容をホワイトボード  
に記入⇒意見や考えの共有



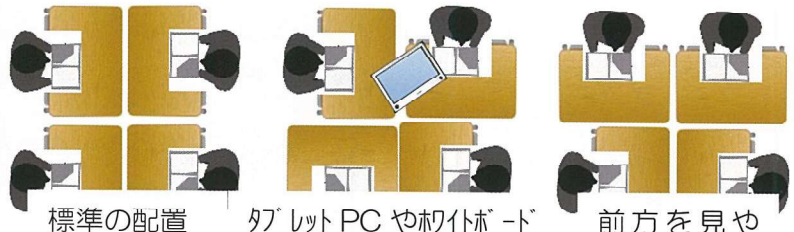
#### ICT活用促進のための工夫

- ・全教室、長いHDMIケーブルを設置した。
- ・生徒用タブレットPCは保管庫に収納せずに、PC室に平置きし、すぐに使えるように、毎朝電源を入れている。
- ・PC室から教室までの運搬は、係生徒が数名で迅速に行っている。
- ・生徒用タブレットPCを班で1台使用する場合のログインNo.を学校全体で統一している。

### グループ学習での机配置の工夫



1人1台、タブレットPCを活用し、自分の考えをまとめる学習



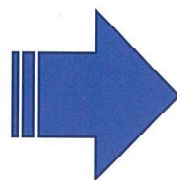
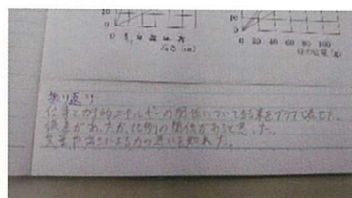
標準の配置

タブレットPCやホワイトボード  
を操作しやすい配置

前方を見やすい配置

## 自分の言葉で授業を振り返る

振り返り時間に入る目安として、授業終了5分前に短い振り返りチャイムが鳴る。



・1週間分を「生活・学習ノート」に記入することで、できたことを集積し、自信がつく。

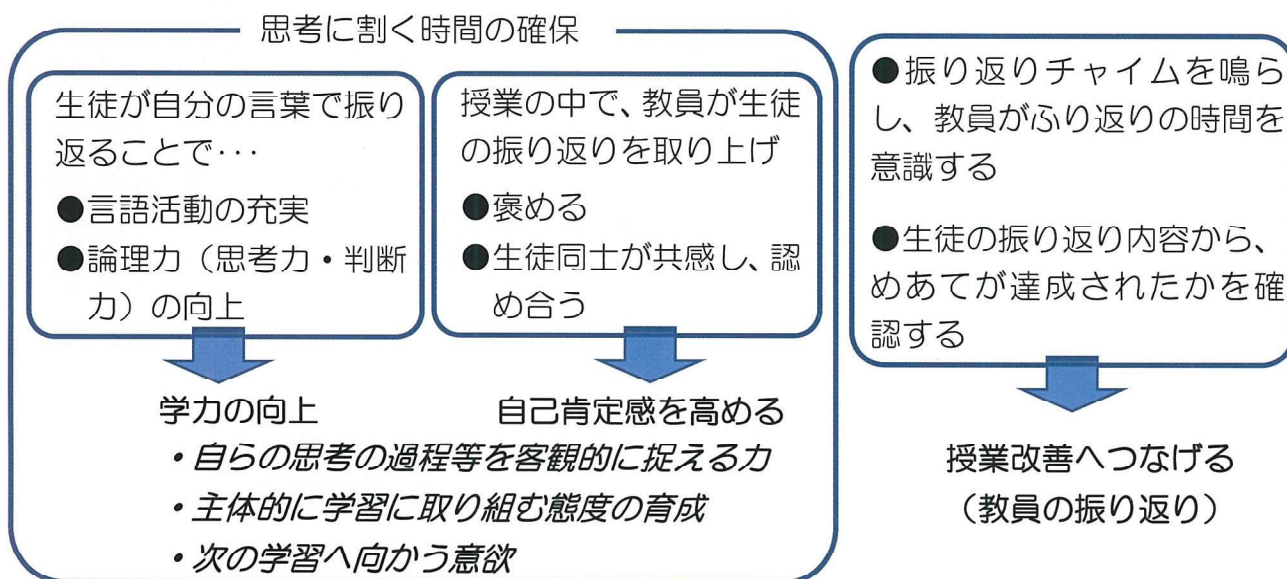
・家庭学習や次の授業への意欲がわく。

自己肯定感の向上

## 「振り返り」の重視

### ◇授業での振り返り

50分の授業を45分で行い、残り5分は生徒の振り返りの時間にする。



### ◇生活・学習ノートでの振り返り

「できたことノート（永谷賢一著）」を参考にし、「1日の振り返り」「1週間の振り返り」ページを設けた、本校独自の生活・学習ノートを作成した。

●「1日の振り返り」は帰りの学活で行う。1時間の授業で、「何ができるようになったのか」「何が分かったのか」を明確にすることで、生徒の学ぶ意欲を高める。また、生活・学習ノートを家庭に持ち帰り、振り返り内容を参考にしながら家庭学習に取り組ませる。家庭学習を習慣化させることで、学力の向上につなげる。



●「1週間の振り返り」は、週末の学活で行う。5教科の教員が1週間の学習内容、振り返りポイントを提示し、生徒は、◎：よく分かった・よくできた ○：ほぼ分かった・ほぼできた △：質問をしたり、復習し直したりする必要がある の三段階で自己評価し、1週間の学習内容の定着を確認できるようにした。

●「1週間の学習内容で1番できたこと・印象に残ったこと」を自分の言葉で表現する言語活動を取り入れた。また、「できなかったこと」の分析ではなく、「できたこと」「分かったこと」に着目させ、その分析を繰り返すことで、自己肯定感を高められるよう工夫した。

●より学びたいこと、次に学びたいこと等を示すことで、主体的に学ぶ態度を育む。

## ◎ 成果と課題

本校では、授業の振り返り学習を重視した研究に取り組み、言語活動を通して自己肯定感を高めるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を探究してきた。

振り返り学習を重視した自己肯定感を高める授業デザイン、授業終了5分前の振り返りチャイム、1時間、1日、1週間の振り返りの確認ができる生活・学習ノートの開発等、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善策を模索した。



### ◇ 言語活動を通して、学んだことを表現する「振り返り」

◆生徒が自分の言葉を使って授業の振り返りを記述した例（数学3年：平方根）  
「 $\sqrt{35}$  が  $\sqrt{7} \times \sqrt{5}$  であることがわかった。」

◎ この生徒は数学がやや苦手であるが、「平方根」の単元としては重要な概念をとらえたことがわかる。この振り返りから「なぜ（そのように）分かったのか？」を考えさせ、これが「九九」の一部であることが捉えられれば、次に「九九」をしっかり覚えようとする推進力となり、自己肯定感を高め、学力向上につながる。

●授業で何ができたのか、何が分かったのか、思考の過程を俯瞰し、学習内容を言語でまとめて表現することは、知識の関連付け、情報の精査につながり、認知力や論理力の育成により、思いや考えを基にした想像力を高めることができる。

●できなかった反省ではなく、できたこと・分かったことの集積から、「なぜできたのか、なぜ分かったのか」を振り返る分析が重要になる。このことが自己肯定感をより高め、次への行動力や推進力の育成につながる鍵となり、主体的に学ぶ態度の涵養に結びつく。

### ◇ 振り返り学習を定着させるための「自己肯定感を高める授業デザイン」

〈成果〉

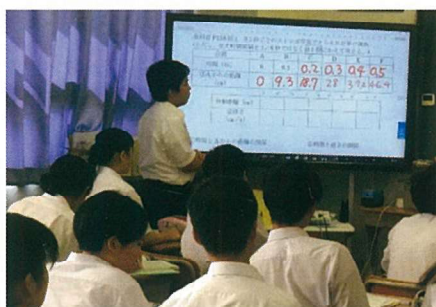
●50分単位の授業を「45分間で終え、5分間で授業を振り返る」授業様式の導入であり、5分間で「生徒が自分の言葉を使ってその授業で分かったこと（思考の過程）を書く」という学習活動の統一ができた。（終了5分前に振り返りチャイムでも合図。）

●振り返りを重視する観点から、「振り返りのための生活・学習ノート」の開発も行った。本校ではこれまで、連絡帳の機能をもつノートを使っていたが、「振り返りを表現する」ことを大切に、時・日・週単位で振り返りを記述でき、学習面について記入する部分を増やしたノートに再構成した。これは、家庭学習の習慣の定着も意識して導入したものである。

●今回、振り返りを中核とした授業デザインを基に研究を進め、できたこと・分かったことの集積が自己肯定感につながることを捉えられたことや、思考の過程を俯瞰し自己の学習への認知力が高まることで、深い学びにつながることを捉えられた。

〈課題〉

●本来学習を振り返る意義は将来の展望や見通しをもつことにあり、「次につなげる学び」の質を高め、これからの変化の大きい社会に対応し、粘り強く学習に取り組む生徒の育成を今後の課題として、さらなる研究に邁進していきたい。



《ご指導いただいた講師の先生》

玉川大学教師教育リサーチセンター

教職サポートルーム 客員教授 吉田 和夫先生

《本研究に携わった教職員》

◎研究主任

○研究推進委員

(平成 31 年度 / 令和元年度)

校長 ○入山 賢一  
 副校長 ○石坂 克己  
 国語科 須賀 恭子  
           廣瀬 干弘  
 社会科 長澤 忠義  
 数学科 ◎山口 裕之  
           本間 淑子  
           岡本美智子  
 理科 ○神谷 明弘  
           ○遠山 志穂

音楽科 皆川 心里  
 保健体育科 遠田 勉  
 技術科 山川 大輔  
 英語科 ○石川 智文  
           宮越 務  
           大越 さや  
           中島 夏妃  
 養護 草間 麻衣  
 事務 上田 梨江那  
 学校司書 枝松 実子  
 学校経営業務支援

(平成 30 年度)

社会科 縄田 敦  
 英語科 鈴木 隆夫  
 学校司書 菊地 栄子

清野 由香梨 濱野 茜